

# 学生と教員で作る文理融合リベラルアーツFD公開フォーラム

文理融合リベラルアーツ科目を受講して ―受講学生の意見―

## 「生命と環境」系列受講生

真田 佳なみ (生活科学部 人間・環境科学科 2 年生)

こんにちは。私は生活科学部人間・環境科学科 2 年生の真田佳なみと申します。本日はよろしくお願いたします。

最初に、これからどのような順番で説明していくかをご説明いたします。目次で、最初に私が履修した科目、1 年生のとき、2 年生のとき、そしてなぜその科目を履修してきたのか、そして 4 番目に系列として履修する面白さ、そして「実習」を受けての感想、文理融合の視点、最後にまとめとしたいと思います。

1 年生のときに履修した科目です。前期に生命と環境 24「生命科学と環境問題の演習」を受けました。後期には、生命と環境 3「多様性生物学」、生命と環境 4「生物人類学」、生命と環境 6「惑星地球の科学」を履修しました。

2 年生になってからは、前期に夏の集中講義なのですが、生命と環境 21「基礎生命科学(実習)」、生命と環境 22「海洋環境学ダイビング(実習)」を履修しました。後期には生命と環境 7「大気と水」の授業を履修しました。

なぜこのような科目、「生命と環境」系列を私が履修していったのかについてご説明いたします。

私は人間・環境科学科に属しているということもあり、環境という言葉には入学する前から興味がありました。そして、「生命と環境」系列の教養科目がこの学校にあるということを知り、何となく受けてみたというのが初めです。

そして、履修していくうちに知識も入ってきますので、環境の奥深さと生命の面白さをだんだん知るようになります。

知識が増えてきたので、もっと知りたいという思いもつるようになりました。また、大人になってからの教養としても、生命と環境問題を扱っているこの科目を取ることは、とても意義のあるものだと思います、履修してきました。

そして、さらに履修し、2 年生になってからは少し気持ちにも余裕が出てきたので、夏の実習など体験型授業も受けるようになりました。

次に、系列として履修する面白さについてお話いたします。3 点挙げてみたいと思います。

第 1 に、いろいろな先生方の視点から見た「生命と環境」を勉強できるという点です。具体的に私が履修した科目から言いますと、地学、生物学、自然人類学、自然地理学など多様な分野の先生方の講義を聞くことで、奥深いことをあらためて実感することができました。

第 2 に、机上で習ったことを実習で体感できる仕組みがあったということです。1 年生のときは教室での授業を多くは履修していたのですが、2 年生の夏休みに、生物学科の先生方による実習の授業を受けたことはとても意義深いものでした。それについては、また後ほどご説明したいと思います。

### 「生命と環境」系列を履修して

生活科学部  
人間・環境科学科  
2 年 真田 佳なみ

### 目次

1. 私が履修した科目(1 年次)
2. 私が履修した科目(2 年次)
3. なぜ履修したか?
4. 系列として履修するおもしろさ
5. 「実習」を受けて
6. 文理融合の視点
7. まとめ

### 私が履修した科目

- 1 年次
  - 〈前期〉
  - ・生命と環境 24「生命科学と環境問題(演習)」
  - 〈後期〉
  - ・生命と環境 3「多様性生物学」
  - ・生命と環境 4「生物人類学」
  - ・生命と環境 6「惑星地球の科学」

### 私が履修した科目

- 2 年次
  - 〈前期〉
  - ・生命と環境 21「基礎生命科学(実習)」
  - ・生命と環境 22「海洋環境学ダイビング(実習)」
  - 〈後期〉
  - ・生命と環境 7「大気と水」

### なぜ履修したか?

「環境」という言葉にひかれて、なんとなく  
↓  
「環境」の奥深さと「生命」のおもしろさを知る  
↓  
「もっと知りたい!」という思い  
↓  
さらに履修、実習など体験型授業も

### 系列として履修する面白さ

色々な先生方の視点から見た「生命と環境」

机上で習ったことを実習で体感

別の授業で習ったことがそのまま役立つ、つながる

第3に、別の授業で習ったことがそのまま役立つ、つながるということです。系列として扱われていますので、それぞれの授業は内容が似ていたり、別の授業で習った知識がそのまま次の授業を聞いたときに「ああ、そうか、あれがああだったからこうなんだ」とか、そういうふうに考えることができたので、とても効率よく勉強することができたと思っております。

次に、先ほど申しました「実習」を受けての感想を述べたいと思います。生命と環境21「基礎生命科学(実習)」では、集中講義の夏休みの実習地に行つての授業の前に、まず学校での実験などを行いました。顕微鏡の使い方から観察の仕方、スケッチの仕方、基礎的なことから学ぶことができ、生物学科に属していない私、または文系の方でも、とても分かりやすい授業でした。また、なかなかできないカエルの解剖などもしました。

そして、夏休みに3泊4日ぐらいで、館山の臨海実験場に行きました。そして磯の観察などをしました。海洋環境学ダイビング実習では、ダイビングのライセンスを取ることが大きな目標なのですが、慣れてくると中にいる生物の写真を撮ったり、時間が空いたときに友達と周りの海を観察したり、そういうことをしました。

そして、学んだことですが、生の生物に触れる貴重な機会を得られたということはとても大きかったです。東京に住んでいると、そういう機会はなかなかないのですが、特に海の生物などはなかなか触れられないので、触れて、名前などを調べたりしたのはとても面白かったです。

また、他学部、他学科の生徒との新鮮な数日間を送ることができました。私にとって衝撃だったのは、生物学科の学生さんたちはとても生物に対する愛というか、そういうものを持っているというのがとても驚きで、同じ学年の友達でもこんなに違うのだと思ったのが印象に残っています。

また、先ほど述べました海の生物との触れ合い、そして最後にどちらの授業も生物の種同定をしました。図鑑を引っ張り出している調べて、例えば脊索動物門は、スズキ目スズメダイ科、それはスズメダイというような名前まで調べてレポートにしたということがとても楽しかったです。

これはダイビング実習に行ったときの写真です。左上にあるのがスカシカシバンで、海の情景が見えているのは、講習を受けているところです。

右上の写真は海の中の実際の映像です。そして左下は、フジツボなどがロープにくっついているところで、右下はサンゴの一種の写真です。

とてもきれいな海の中を歩いて面白かったです。

次に文理融合の視点について述べます。特に文理融合ということ意識して履修はしていませんでした。しかし、生命、環境を考える上で、理学的なことだけではなく、社会的背景を考慮することが多かったです。例として、先ほど高橋さんがおっしゃっていましたが、生命と環境7「大気と水」の授業では、社会的背景を考慮することが多く、あらためて環境問題は、文理融合の視点を持つことが大切だということを実感しました。

結果的に意識はしていませんでしたが、文理を問わず幅広い視点を養えたと思っております。

最後にまとめたいと思います。楽しく学ぶことができたというのは、とても感謝しております。そして系列になっているということで、良い授業があってもなかなか学生が気づきにくいとか、選びにくいとか、あると思うのですが、私の場合は系列を選んでどんどん受けていくことで科目を選びやすかった。選んでいって、何となく選んでいただけなのですが、つながりを持てたということはとてもよかったです。

私としての今後の目標ですが、生命と環境系列で、まだ文化環境の授業を履修していないので、そのような授業を履修していけたらと思っております。自分なりの環境観を培うということも目標です。まだ環境問題は何かと人に聞かれたときに、説明するような知識などが身に付いていないと自分でも感じるので、これから勉強していきたいと思っております。

ご清聴ありがとうございました。

～「実習」を受けて～

- ・生命と環境21「基礎生命科学(実習)」
- ・生命と環境22「海洋環境学ダイビング(実習)」

- \* 生の生物に触れる貴重な機会
- \* 他学部、他学科の生徒との新鮮な数日間
- \* なかなか見ることの出来ない海の生物との触れ合い
- \* 一生懸命調べた生物の種同定



文理融合の視点

特に意識して履修していなかったが・・・

生命、環境を考える上で、理学的な事だけでなく社会的背景などを考えることが多かった  
例: 生命と環境7「大気と水」

→結果的には、文理問わず幅広い視点を養えた

まとめ

- 1、楽しく学ぶことが出来た
- 2、系列になっていることで、科目を選びやすかった
- 3、今後の目標
  - ・文化環境の授業を履修して、より広い視野を持つ
  - ・自分なりの環境観を培う

ご清聴ありがとうございました